

プロジェクト報告書

団体名 社会福祉法人慈生会 ベトレヘム学園

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願いします)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

楽しく、笑って働き続けられる仕事力をつかむ！

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

働き始めて 2 年目、3 年目、4 年目の職員に対しての研修を行います。この時期の職員は、熱心さから仕事に入り込み過ぎたり、疲れを知らずに溜めこんでしまい、心身共に疲労させて、職場から離れる(退職)ことがあります。仕事に関わる“壁”(“山”でもいい)が現れる頃と考えられます。この研修を通して、仕事との距離の取り方、仲間とのつながりをつけて、ストレスフルな状況を軽減させていく方法、壁の乗り越え方等を身につける研修を考えています。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

施設の外部スーパーバイザーや施設長、先輩職員、他施設職員等を講師もしくは仲間として迎えて、一緒に考える時間としました。1 回 2 グループ(5~6 名)にして、2 回実施しました。グループでの話し合いのテーマは「仕事をしていて、壁にぶつかった時に必要なことは？」としました。翌日の最後の時間までに発表できるようにしました。途中、先輩職員(他施設長や自施設先輩職員)の経験談を聞く時間を設け、発信すること(グループワーク)と受け取ること(経験談を聞く)を体験しました。最後の時間、それぞれのグループからの成果を発表し、互いに感じ合ったことを話す場となりました。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

“先輩職員”がグループに 1 人入り、ファシリテーター役を担ってもらいました。この役割は指導的な立場ではなく、場の進行、時間配分などグループをマネジメントすることです。これはその職員もグループ運営を学んでほしいとの考えからでした。話し合いの流れやメンバーの状態をつかみ、大きく逸れてしまいそうな時は修正していく。“先輩職員”には現在リーダーとして活躍しているもの、今後を期待する人を選びました。“先輩職員”からは、自分の考えを言いたくなった、場を見るということがどういうことか体験できたとの感想がありました。近隣の他施設からの参加者もあり、施設の“壁”を超えて話し合うことはお互いに有意義でした。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

この研修を実施して、予想していなかったことが 2 点ありました。1 点は 2~4 年目の職員に 1 度は“壁”が訪れるであろうと考えましたが、実際は“壁”が何だかわからない、“壁”にあってないという声がありました。まだ悩まないのであるのか、それとは感じずに乗り越えてきているのかと考えられます。年長者が考える“壁”は、感じる個人差もあるでしょうが、経験者からの視点なのかもしれません。もう一点は、ライフワークバランスという視点です。参加者に女性が多かった、妊娠をしている職員がいたということもありますが、グループの話題に上がり、女性の視点、それを横でみる男性の視点が語られる場面がありました。若い職員にとっては将来のデザインを描くきっかけになったのではないかと思います。日常の中では埋もれてしまいがちなことを考えられた有意義な研修でした。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし

宿泊研修 ② H25年 9月 29~30日
1日目





2日目

